

きらり輝く 特殊鋼ウーマン

伊藤忠丸紅特殊鋼

さ さ い ま ゆ み
笹井 万友美さん

鉄に惹かれて入社

伊藤忠丸紅特殊鋼の女性総合職第1号として、2008年に入社した。最初から鉄鋼志望だった訳ではなかったが、大学で開かれた企業説明会で『鉄鋼』という言葉に惹かれ、また海外につながる仕事ができると考えたそう。会社が女性総合職を採用する方針を決めていた時で、採用担当者の印象もとても良く、「出会いに恵まれました」と振り返る。

管理本部管理部に配属され、経理を担当した後、特殊鋼本部工具鋼部に異動。工具鋼部と特殊鋼本部の両方の仕事を兼ねて、時々外回りに同行しつつ、経理での経験も活かして予算作成や月次実績の取りまとめなどで活躍している。目的が明確で精度が高い資料を迅速に作成する上で、女性らしいきめ細かさを生かし、職場の業務レベル向上を牽引している。



「転職はまるで考えていませんし、女性総合職第1号としてバリバリ活躍したいと考えています」と力強い。他社では担当を持っていたり、役員として活躍する女性もいる。そうした人達がまだ少数派の時代だが、「女性であることをセールスポイントにできるチャンス」と前向きに捉えている。

女性総合職第1号

同社は2013年3月に群馬県前橋市に前橋支店・特殊鋼センターを開設した。東日本大震災で浦安工場が被災したことを契機に、関東地域の特殊鋼の加工・物流拠点を集約して新たに大型拠点を構

築し、顧客サービスを一段と向上させた。笹井さんにとっては日常業務で多忙を極めた時期に移転が重なっただけに、無事終わった時の達成感は格別だったようだ。

若い社員が思う存分に

自社の社風を「上司が教育熱心で、学びたい気持ちや向上心をバックアップしてくれる会社」と受け止めている。世間一般では大人しい若者が増える風潮があるだけに、「若い社員は言われたことをコツコツやるだけでなく、好きなだけ頑張ればいいし、もっと突拍子もないことをやってみてもいいと思います」と。若手社員の良き姉貴分らしい言葉だ。

全特協の特殊鋼販売技士1級資格を取得するまでに学んだ知識と、仕事を通じて学ぶ技術知識は

「残念ながら、まだがっしりとつながってなくて、そこは課題」と言うが、テキストを折に触れて読み返しては、「ああなるほど、そういうことだったんか」と確認しているそうだ。

業界のイメージ・アップにつながるアイデアは、と問いかけると、「30年史を作る時にはこういう企画が不要なくらい、女性や外国人の方達が当たり前活躍している業界になっていたら、すごいですね」と、柔らかな笑顔で返された。

大学院の専攻は国際協力。タイではミャンマーから逃れてきた少数民族などの難民がキャンプ生活を送り、その数は10万人をゆうに超える。「自分より潜在的に優秀な人たちも沢山いるはずなのに、教育の機会が得られず、文字も読めない人たちが大勢いる。少しでも力になりたい」と。院生時代に半年休学して現地でボランティア活動に励んだ。「プライベートの時間で、国際協力で生涯関わっていききたい」と考えている。

